

令和4年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	令和4年4月28日(木)	時間	13時45分 ～14時15分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 吉村委員長(伊丹市医師会会長)、栗田委員(宝塚市医師会会長)、森田副委員長代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、千葉委員(伊丹市薬剤師会会長) 清水委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、福井委員(伊丹市消防局長)、松尾委員(伊丹市健康福祉部長)、藤本委員(宝塚市健康福祉部長)、作田委員(川西市健康医療部長)、細田委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、筒井委員(市立伊丹病院病院長)、中村委員(市立伊丹病院地域医療連携室主任部長)、伊東委員(市立伊丹病院地域医療連携室部長)、竹原委員(市立伊丹病院看護部長)</p> <p>委任状： 木村委員(三田市医師会会長)、八田委員(尼崎市医師会会長)、喜多委員(三田市総合政策部未来戦略室地域医療推進担当参事)、田中委員(市立伊丹病院事務局長)</p> <p>欠席： 藤末委員(川西市医師会会長)</p> <p>オブザーバー(市立伊丹病院)： 下山(診療部長)、村山(診療部長)、三木(小児科主任部長) 太田(歯科口腔外科主任部長)、萩原(放射線診断科主任部長)、水野(医療技術部室長)、上田(薬剤科長)</p>				
議題内容	<p>■ 開会のごあいさつ</p> <p>本日は、連休前のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。コロナの方も未だすっきりしない状況が続いておりますけれども、私の診療所でも検査をしますと毎日 2、3 名ほどの陽性者がでております。症状の特徴といたしましては、軽症であるということ、本人の自覚もなく発熱も単発であり全身症状がないような状態で、通常通り待合室で座っておられるような状況です。</p> <p>そろそろコロナの初期治療を一般の開業医で行っていくべきかと感じているところであります。このコロナをきっかけに伊丹病院を中心として多職種連携が進んでいくことを期待しているところです。</p> <p>事務局より報告をお願いしたいと思いますので、皆様の積極的なご意見等お願いいたたく存じます。よろしくお願いいたします。</p> <p>■ 委員紹介</p> <p>席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。</p> <p>本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第2条ならびに第3条による公開となっております。</p> <p>開催案内したが傍聴希望者は無。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本委員会は議事録作成のため録音している ・会議録の記載内容 <ol style="list-style-type: none"> 1.開催の日時および場所 2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名 3.議題およびその内容 4.議題の要旨 5.議決事項 6.その他委員長が必要と認める事項 <p>討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し</p> <p>第18条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉村委員長より指名 飯田委員、福井委員に依頼したい。 両者共に了承。 				

■ 議事

1) 紹介患者に対する医療提供について

資料 1-① 1-② 1-③ 1-④ 1-⑤ に従って説明

資料 1-①

令和 3 年度地域医療支援病院紹介率は 77.6% 逆紹介率は 89.5% で前年度より紹介率は増加、逆紹介率は減少している。

承認要件である紹介率 65% 以上、逆紹介率 40% 以上を満たせた。

資料 1-②

紹介患者数においては、診察依頼、検査依頼共に増加。

資料 1-③

令和 3 年度科別紹介患者入院率では、総入院患者の 38.8% が紹介を受けた患者であり、前年度と比較し同数となっている。(前年 38.8%)。

資料 1-④

令和 3 年度患者住所地別紹介患者数では、76.4% が伊丹市、続いて宝塚市、尼崎市、川西市の順となっている。

資料 1-⑤

令和 3 年度地域医療連携室利用割合では、紹介患者の 87% が地域医療連携室を利用され受診された(前年度より 2% の増加)。

・ 紹介患者数のコロナによる影響について

→ 令和 2 年度の紹介患者数は令和元年度と比較して減少となったが、令和 3 年度は前年度と比較すると 2004 件の増加となり、徐々に回復しつつあるのかと思っている。

2) 救急医療の提供について

資料 2-①、資料 2-②に従って説明

資料 2-①

令和 3 年度においては、前年度と比較して、救急車搬送数、救急車以外(独歩)での来院共に減少している。

資料 2-②

令和 3 年度の救急搬送お断り率は、34% で前年度と比較し 11.4% 増加した。

・ 救急搬送お断り率の増加について病院としての分析は

→ 令和 3 年度は県から、コロナ患者受け入れ病床の設置を 2 倍増床で要請があった経緯がありその影響で一般の病床が満床となりお断り件数の増加につながった。また、救急外来の陰圧処置室が 1 室であったため、処置中の際、別件の救急搬送の依頼を受けることが出来なかったが、本年 3 月に陰圧処置室を 2 室に増設した。今後は、改善されると思われる。

・ 消防局における救急搬送についてのコロナの影響は

→ 最近落ち着いたが、一時は、搬送にかかる時間が延伸傾向にあった。

3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明

令和 3 年度、地域医療従事者対象研修会は 15 回開催した。院内の出席者はのべ 205 名、院外からは 286 名の参加。承認要件の年間 12 回以上開催を満たしている。

・ 先日開催した、伊丹市の多職種連携の会にて市立伊丹病院の先生に講演いただき好評であった。今後このような機会があれば協力をお願いしたい。

4) 開放病床の運用実績について

資料4に従って説明

令和3年度の平均利用率は2.5%(前年度は5.6%)であった。

5) その他

・歯科医師会としては、年に2回の病診連携協議会や医歯病診連携勉強会の開催、学術講演会への講師派遣等、市立伊丹病院にはご支援、ご協力いただき大変感謝している。

■ 閉会のごあいさつ

本日はご出席いただきました皆様には、通常の診療や業務に加えて新型コロナウイルス感染症の対応でお忙しい中ご出席くださり誠にありがとうございました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年であれば春と秋に開催しております本委員会を书面開催とさせていただきます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、ワクチン接種や新規薬剤などの開発が進み、まん延防止等重点措置が解除されたことを受け、本委員会を例年通り開催し令和3年度のご報告をいたしました。

昨年度も皆様には大変お世話になり、おかげさまで先ほどご報告申し上げましたように地域医療支援病院としての要件をクリアすることが出来ました。これもひとえに委員のみなさまのご支援のたまものと感謝申し上げます。

昨年度の初診患者数、紹介患者数は、一昨年度を上回り、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかった令和元年度とほぼ同等まで回復いたしました。しかし、昨年度の救急外来患者数は、一昨年度と比べ減少し、救急車の受入れも3280件で154件(約5%)減少しました。お断り率も残念ながら34%と高くなってしまいました。お断り理由の内訳では、「処置中」と「満床」が特に増加し、両者で全体の56%を占めました。「処置中」が増えた要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を重ねるにつれ、診察・処置に時間を要する陰圧室対応の患者数が増加し、救急要請に対応しきれなかったことと考えています。また、「満床」が増えた要因は、コロナ専用病棟を一昨年度は1病棟のみで対応出来たものが、感染者の増加を受け昨年度はコロナ専用病棟を2病棟要する期間が年間の6割以上にもなり、新型コロナウイルス感染症以外の入院病床が著しく減少したことと考えています。昨年度の新型コロナウイルス感染症の新規入院患者数は一昨年度に比べ2倍弱にまで増加しました。

また、感染対策室を中心とした職員の協力により、昨年度は大きな院内感染を起こすことなく診療が継続できたため、一昨年度以上の入院患者の受け入れが出来たことも「満床」が増えた要因の一つと考えています。

お断りを少しでも減らすために、本年2月には、救急外来に陰圧室を1室増設するなどの新型コロナウイルス感染症に対する診療体制の強化も行いました。

次に、今年度の当院の診療体制につきご報告いたします。

今年4月に濱口糖尿病センター長が副院長に昇任し、中村老年科主任部長・地域医療連携室主任部長が新しく診療部長に就任しました。副院長は、濱口、中井、森田の3名体制です。

また、本年度から新たに2つのセンターを開設しました。遺伝子診療センターには、新潟大学産婦人科学教室の教授を務められた榎本先生を迎え、HBOC等の遺伝子診療を強化していく予定です。また、臨床心理センターでは精神科の三好先生を中心とし、心理学の専門家を含めた多職種が協働して、患者やご家族にこころのケアを提供していきます。

お陰様で本年度も医科10名の臨床研修医を迎えることが出来ました。大阪大学とのたすき掛けで2名の臨床研修医を受け入れますので、臨床研修医は1年目12名、2年目8名が在籍しています。2年目の研修では地域医療研修でお世話になる予定です。ご協力の程宜しく願いいたします。専門研修では、内科・整形外科に加え麻酔科が研修基幹病院として認定されました。現在、30名の専攻医が専門医の取

得を目指し研鑽を積んでいます。

本日は誠にありがとうございました。統合新病院へ向けた工事などの影響でご不便をおかけすることもあるかと存じますが、今後とも市立伊丹病院へのご支援をお願い申し上げて閉会のご挨拶とさせていただきます。

■ 謝辞

本日は大変お忙しい中、吉村史郎委員長を初め、委員の皆様にご出席いただき、また、適正なご意見をいただき感謝申し上げます。

筒井秀作院長からは病院の診療についての説明していただきましたので、私からは「市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の統合」について、現在の状況をお知らせして謝辞に代えさせていただきますと存じます。

平成30年に「市立伊丹病院あり方検討委員会」を大阪大学心臓血管外科教授の澤 芳樹教授に委員長をお願いし、平成31年2月5日には公立学校共済組合近畿中央病院との統合を踏まえた検討をするようにとの提言をいただきました。

その後は、令和元年度に「市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の統合検討会議」を設置し、令和2年4月1日に「市立伊丹病院と公立学校共済組合近畿中央病院の統合に関する基本協定書」を締結し、令和2年5月に「市立伊丹病院・公立学校共済組合近畿中央病院統合委員会」を立ち上げ検討してきました。

今後は、この基本協定書と「統合委員会」の答申を受けて、統合新病院の整備に向け、具体的な診療機能、診療体制等について、継続して協議を行っていきます。参考としてパンフレット資料を付けていますので、後でご確認してください。

しかしながら、残念なことに3月に実施した工事の入札が不調に終わりました。COVID-19やウクライナ侵攻によって、工事に必要な原材料の不足、資材価格の高騰などが要因ではないかと考えております。一刻も早く工事に取り掛かるべく、工事内容を見直して、再度入札を実施する手続きに入りますが、手続きには一定の期間が必要となることから、竣工時期には影響があるものと考えてはいます。今後の統合針病院の経過につきましては、新しい情報が入れば、機会を見つけて公表していきたいと考えております。

なお、筒井秀作院長のお話では出なかったことですが、本年6月からは、脳神経内科と救急科を新設したいと考えております。統合新病院を目指して、引き続き診療科の新設と改革を図っていきますので、今後とも市立伊丹病院を宜しくお願い申し上げます。

本日は令和4年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会に参加いただき、誠にありがとうございました。

別紙のとおり「令和4年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者

令和4年5月25日

吉村史郎



別紙のとおり「令和4年度第1回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人 令和4年5月26日

飯田良治



議事録署名人 令和4年5月30日

福井浩次

